（１）西土佐小・中学校

西土佐小学校長　段松　淑子
西土佐中学校長　黒岩　惣一
研究推進担当　　新玉　恵子

１．研究主題

「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童生徒の育成」
～探究のプロセスを通して～

２．主題設定の理由

西土佐地域は、自然豊かで四万十川が流れる中山間地域に位置しており、昔から林業、農業、川漁が盛んに行われてきた。近年では、少子高齢化、後継者不足という問題も抱えている。地域の人たちは、子どもたちが西土佐の良さに気づき、地域を大切に思い、地域に根ざして生きてもらいたいという願いをもっており、学校の活動にも協力的である。児童生徒は素直で、学習に真面目に取り組み、友達とも穏やかに接し、互いに声をかけ合って活動する姿が見られる。反面、自分の思いを表現することが苦手であったり、自己有用感が低かったりする面もある。

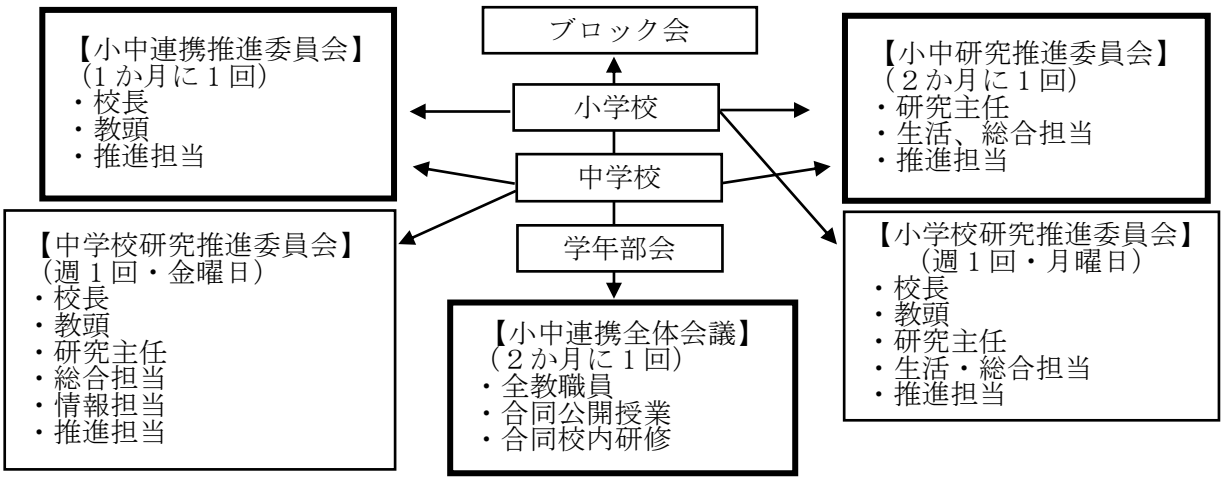
本年度は、西土佐小・中学校で「令和３年度中山間地域における学校づくり推進事業」の指定を受け、研究主題を「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童生徒の育成～探究のプロセスを通して～」と設定し、生活科及び総合的な学習の時間を中心として研究を進めている。

地域資源を活かした体験活動を行うことを通して、児童生徒自らが課題を見つけ、情報収集や情報分析をしたり、目的に沿ったまとめ・表現を行い、自分たちの思いを発信したりすることで、主体的・対話的で深い学びを実現すること、また、各学年の学力課題を克服するとともに、夢や志を育み、自信をもって自分の考えを表現できる力を身に付けることを目指し、本主題を設定した。学習指導要領を読み込み、アドバイザーの講話や先進校の取組に学ぶとともに、市教委及び西部教育事務所の指導を仰ぎながら、小中が連携して、計画的・協働的に「探究的な学び」について追究していく。

３．研究の進め方と方法

＜研究体制＞

小中合同での研究のスタートに当たり、研究体制を構築した。「研究推進委員会」を中心として研究を進めた。



＜研究内容＞

９年間の学びをつなぐ実践

（１）西土佐地域の特色を生かした教育課程
（２）授業改善
（３）埼玉県学力・学習状況調査の活用
（４）コミュニティ・スクールについての取組

４．９年間の学びをつなぐ実践

（１）西土佐地域の特色を生かした教育課程

①地域資源の掘り起こし

・校内での掘り起こし

総合的な学習の時間の研究に取り組むまでに、教員が西土佐地域について知ることが大事だと考え、自分たちが知っている地域の「ひと・もの・こと」について共有した。それぞれが知っている「ひと・もの・こと」を付箋に書く中で、西土佐出身だから知っていることもあれば、他の地域から来たから分かることもあり、地域についてより深く知るよい機会となった。できた資料はいつでも見ることができるように職員室に掲示し、活動について考える際や、年間計画の作成、見直し等で活用できた。

地域の資源を出し合い探究課題につなげる

ひと
- 森林ふれあいセンター
- JA
- せせらぎ交流館
- よって西土佐
- 語り部

もの
- ゆず・栗・米ナス
- あゆ・ツガニ・川エビ
- 屋形船
- 慰霊碑
- ごみ

こと
- お祭り
- 四万十川体験
- 満州開拓団
- 田植え
- 稲刈り

・地域の人を交えた掘り起こし

西土佐地域の特産物、施設、取組等について知るために、産業建設課の方に来てもらい話を聞いた。学校運営協議会でも、地域の人の思いを聞くことができた。西土佐で地域を活性化するための取組を具体的に聞くことで、地域の特色を生かした探究課題の選択肢が広がり、総合的な学習の時間の取組が楽しみになった。

《取組例》米ナスが西土佐の特産物の１つであることを聞き､JA の協力で雨よけのハウスをたてて米ナスを栽培し、道の駅で販売実習を行った。

②目指す子ども像

年間計画の作成に向けて、小中合同で児童生徒の実態について話し合い、それぞれが気づいた児童生徒の様子を付箋に書き出し、目指す子ども像を確認することで、小中共有テーマを設定した。

強み：真面目
穏やかで優しい
あいさつができる

弱み：思いを表現すること
チャレンジ精神
自己有用感

教師の思い
- 失敗しても大丈夫。挑戦して、失敗して、成長していってほしい
- まず、子どもにやってみたい、見てみたいと思わせる
- 間違っても OK

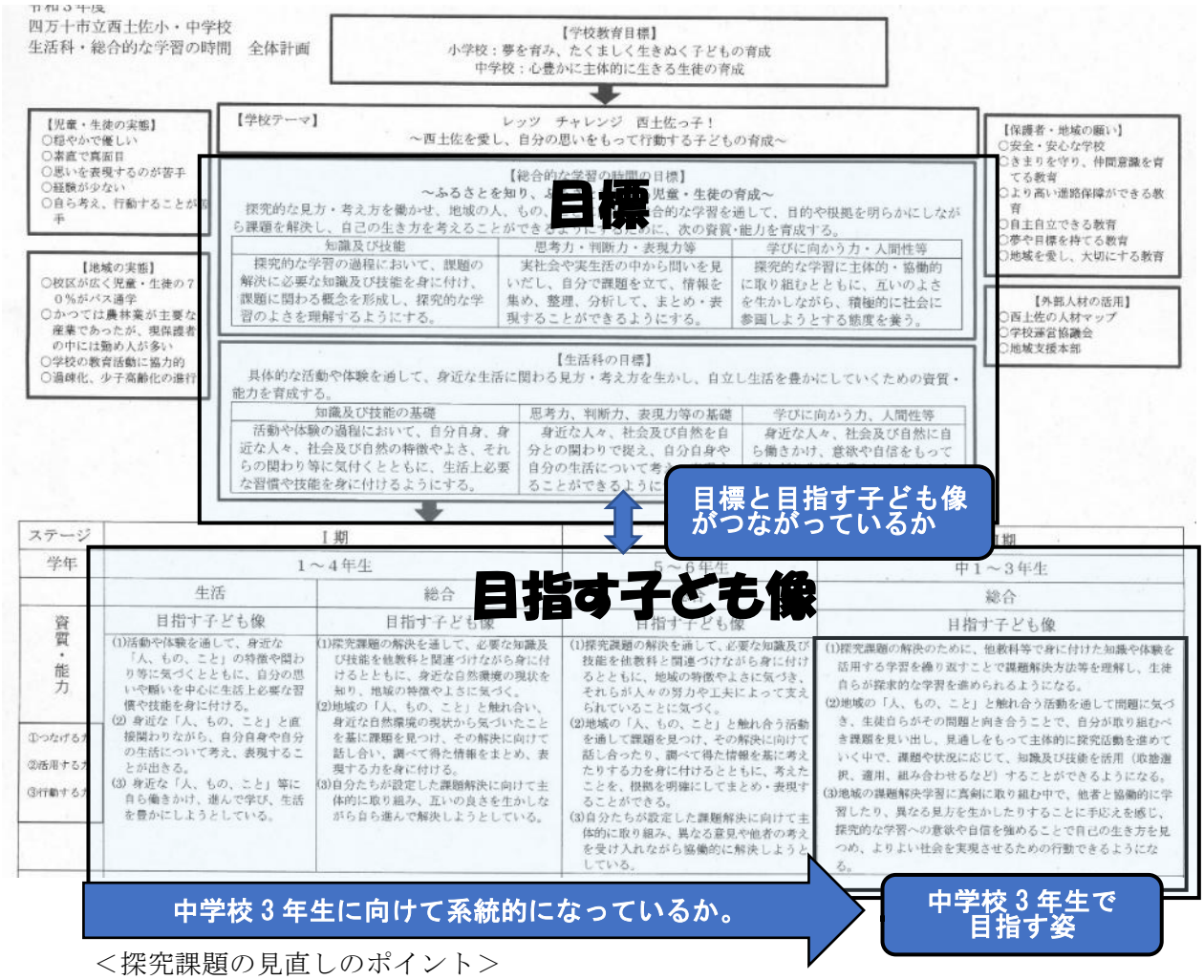
小中共通テーマ
『レッツ　チャレンジ！　西土佐っ子』
～西土佐を愛し、自分の思いをもって行動する子どもの育成～

③全体計画の見直し・年間指導計画の作成

各学年が設定している資質・能力が、ゴールイメージ（中３の目指す姿）に向かって系統性あるものになっているかを検討し、全体計画を整理した。また、年間指導計画は、単元一覧表を基に９年間を見通した探究課題となっているかについて吟味した。

＜全体計画見直しのポイント＞

・目標と目指す子ども像がつながっているか。
・各学年の目指す姿がつながっているか。
・各学年の目指す姿は系統的か。



＜探究課題の見直しのポイント＞

・各学年の内容につながりがあるか
・学年と学年とのつながり
・９年間の系統性
・中３の目指す姿に向かっているか

（２）授業改善

①講師による指導助言

中山間地域における特色ある学校づくり推進事業アドバイザーである小堀美雅子先生に講話や指導助言をいただいた。講話の内容は、

「生活科・総合的な学習の時間の単元・授業づくり」
「主体的な学びの実現に向けて」
「学習活動の充実に向けた評価の在り方」

である。指導助言を受けて、２学期から、

・振り返りの時間の確保（ノート等の活用）
・振り返りの内容の充実(自己変容への気付き)

を重視して取り組み、子どもの思考を生かす授業を目指した。

②公開授業

【10 月】

小学校４年生、中学校１・３年生が公開授業を行った。研究協議の視点を「主体的な活動となっているか」にしぼって協議した。

＜研究協議からの学び＞

・学習のめあて、発表の視点などをより明確にして活動させる。
・子どもの意見やつぶやきをつなげ、問い返すことで対話を広げ、子どもの思考をつなぐ。
・子どもの思考を揺さぶる発問を意識する。
・思考ツールを効果的に活用する。
・目的意識や課題意識を児童生徒につかませる。

＜今後の取り組み＞

・深い学び、主体的な学びとなるよう、深く考えさせる場面を逃がさない。
（そのために予想される子どもの反応を考えておく）
・子どものつぶやきを生かす（中学校は学年部で役割分担をする）
・導入で前時の振り返りを生かす。

タブレットを使って「効果的か」「実現可能か」話し合った。（中１）

四万十川についてのアンケート結果のグラフを見ながら班で話し合い活動。（小４）

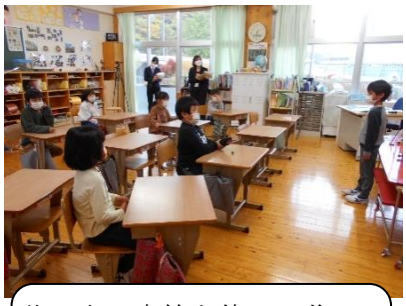
生徒（学習リーダー）が主体となって学習活動を進める。（中３）

【11 月】

小学校１・３・５年生、中学校２年生が公開授業を行った。上記の課題を生かして授業に取り組んだ。児童生徒の振り返りを生かすことで、自分事として学びに向かう姿が見られ、児童生徒の意識の変化を感じた。

＜今後の取り組み＞

・活動やめあての視点を明確にする。
・観点をしぼって授業を進め、思考や対話の時間を確保する。
・個人思考を活動に取り入れ、全員の考えを把握し、授業に生かす。
・教員の役割分担を明確にする。



秋の木の実等を使って作ったお気に入りのおもちゃや飾りを友達に紹介。（小１）

西土佐の特産物について、誰に伝えるかをピラミッドチャートを使って話し合う。（小５）

仕事の聞き取り学習に向け、質問内容をグループで話し合う活動。（中２）

③実践報告（７月）

各学年が、１学期に取り組んだ生活科・総合的な学習の時間の実践を発表し、全教職員で振り返った。手探りで始めた研究が、少しずつ形になってきていることを感じることができ、実践の振り返りとともに、２学期の授業づくりへの意欲付けとなった。

④振り返りの充実

小学校ではワークシートで、中学校では総合学習のノートを全員に持たせて、学習を進めている。主体的な学習者の育成のためには「振り返り」が重要と捉え、２学期から更に「振り返り」の充実に努めた。

ただ、教員間での共有の時間確保が難しいため、小学校では資料を作成して回覧し、互いに学び合った（２か月に１回程度作成)。各学年の資料をファイルに綴じて回覧し、時間があるときに見てもらい、気づいた点を書き込んでもらった。教職員で生活科・総合的な学習の時間の活動内容を把握できるとともに、授業づくりの参考になったり、評価につながる見取り方の学びになったりした。２学期末には、児童生徒の振り返りの変容についての資料を作成して、小中全員で共有した。

今後は､担任が子どもの振り返りの価値付けを行い､次時につなげることが大切と考える。

【「振り返り」から見取った子どもの成長と価値付けの例】

おもしろいものがありました。おもしろかったです。作ってみたいです。

⇒

聞き取り学習から、地域の人がこの西土佐についてどう思っているのか分かった気がした。地域を元気にしたい、盛り上げたい、淋しくさせないという思いの強さを感じた。この地域が大好き、もっと活性化させていきたいとおっしゃっていた。自分も将来この地域で何かできることはないのか考えていきたい。職場体験では、もっと地域のことについて深めていければと思う。

西土佐のことを大切に思っている地域の人の思いを知り、自分の将来も見つめることができている。

⑤「学びの記録」の作成

各学年の学習活動を「学びの記録」として残した。課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現と、活動を進める中で子どもたちは多くのことに気付き、自分の考えを深めてきた。その子どもたちの思考の流れが分かるように記録し、教室や廊下等に掲示した。立ち止まって考えたり、学びを振り返って考えたりする時に、子どもたちが掲示物を見返している姿をよく目にした。活動の足跡の「見える化」は、子どもたちにとって、深く思考し、次の思考へつなげていくための、有効な手がかりとなったようだ。

↑　小学校の学級掲示

中学校の廊下掲示　→

⑥情報活用能力

・図書資料活用

小学校２年生の生活科では、図書資料を使って調べ学習を行った。「生き物を育てよう」の活動で、生息場所や餌、飼育方法について調べた。友達と図書資料を比較することで、生き物についての記述内容が資料によって違うことに気づき、自分たちが調べたことをどう生かすか話し合い、学びを深めることができた。

・ICT 活用

中学校では、設定した課題について、ICT を活用して情報収集したりまとめたりした。情報収集では、インターネットを使って調べ、調べたことを友達が調べた内容と比較できた。ICT を使ってまとめるときには、文章、表やグラフや資料、色等を工夫して伝えたいことが伝わるようなスライドを作った。伝え合うことで、更に疑問をもち、次への課題につなげることで探究的な学習を目指した。

グループでの話し合いに、タブレットを活用した。自分たちがこれまで考えてきた内容が、地域の「活性化に効果的か」「実現可能か」という視点で座標軸を使って話し合いを進めた。吟味する内容を画面上で軸に合わせて移動させることができ、ICT を効果的に活用できた。

（３）埼玉県学力・学習状況調査の活用

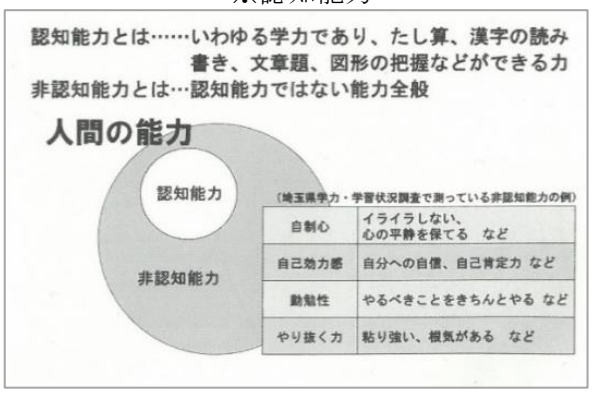
＜本調査の特長＞

・特長１　小４から中３まで、同じ子どもを継続的に調査することができる

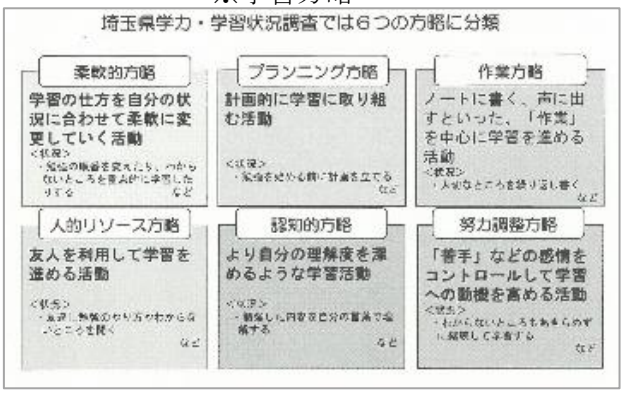
・特長２　異なる学年、異なる年度の調査でも比較できる

・特長３　非認知能力や学習方略にも注目できる

※認知能力



※学習方略



５月に埼玉県学力・学習状況調査を実施し、結果を基に２学期に分析・検証した。この調査は、一人一人の伸びを重視して活用するが、今年度は１回目のため、学級全体と個人の結果を分析した。

２学期に、個人結果票を使って、児童生徒と個人面談を行い、学期末には保護者面談（中学校は三者面談）で、子どもの伸び（今年度は良さ）を家庭と共有した。伸びや良さを中心に伝えることを共通確認して取り組むことで、意欲を高めるようにした。

校内では、学級分析・個人分析をし、学級や個人の良さや課題を明確にし、改善については、ブロックや学年部で具体的手立てを考え、学校全体で共有して取り組んでいる。

＜個人分析の例＞

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0 となっています。数値が高いほど、よい値となっています。

国語		算数	R3結果									
R3レベル		R3レベル	主体的･対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
7-C		6-A	3.6	2.9	3.1	2.8	2.8	3.7	3.9	－	3.3	
7-B		6-C	3.6	2.9	3.1	2.8	2.8	3.7	3.9	－	3.3	
6-A		6-A	4.1	3.7	3.7	3.7	3.3	3.8	4.0	－	2.9	
5-A		5-B	4.3	3.5	4.0	4.0	4.2	4.3	3.7	－	2.1	
6-A		7-C	4.2	3.0	4.0	4.0	1.7	3.6	4.5	－	1.9	－
6-B		7-B	3.1	2.2	1.3	1.5	3.5	3.2	3.3		3.7	
8-A		7-B	2.6	3.8	4.8	2.8	2.3	3.6	4.0	－	2.9	

氏名	分析・見取り	具体的取組
	・自己効力感　１．９　→ 自信がなく、目標が高い。	友達同士で認め合う機会を設け、全体の前で活躍を認めていく。個の時間を人一倍設けて、自尊感情を高めていく。

（４）コミュニティ・スクール（CS）についての取り組み

今年度、中学校の学校運営協議会を年３回開催した。そこでは、来年度から小学校も学校運営協議会を立ち上げ、小・中学校がコミュニティ・スクールとなることを確認した。会の中で、地域の方々の地域や子どもたちに対する思いを知ることができた。更に生活科・総合的な学習の時間で大切な、地域の「ひと・もの・こと」について情報交換する良い機会となった。

小学校では、CS マイスターである佐川町立黒岩小学校　黒瀬忠行校長先生にコミュニティ・スクールについての講話をいただき、立ち上げに向けて共通理解を図った。

５．今年度の成果と課題

【成果】

○小中合同で、児童生徒の実態把握からスタートし、共通テーマや目指す子ども像を設定することで、教員が意思統一して取り組むことができた。実践の中でも、テーマに立ち戻って方向性を確認する場があり、小中の集団としての意識が高まってきたと感じている。

○９年間の系統性を見通し、全体計画・年間指導計画を作成した。各学年や次の学年へのつながりを考えた単元づくり、探究課題となる教材を生活の中で意識する目が養われるなど、教員に意識の変化が見られた。

○公開授業及び講師招聘を計画的に実施した。講話や指導助言から計画や授業づくりにおけるポイント等が学べ、改善点を確認しながら実践した。子どもが主体的に活動する姿が増え、学びを次の授業へ活かす等、授業改善につながった。

○生活・総合授業アンケートの結果、これまでの評価と比べ高くなっていた項目がある。

・総合的な学習の時間は楽しい　88％→90％
・積極的に話しかけたり発言したりしている　67％→80％
・自分の住んでいる地域が好き　79％→93％

児童生徒の興味関心を大切にした授業づくりが意識されたことで、授業改善が図れたと考える。また、地域と関わる活動を意図的に仕組むことで、児童生徒が西土佐地域の良さに気づき、地域の人の思いを知ることで、地域や将来につながる意識の変化が見られたと考える。

【課題】

●多様な西土佐地域の資源を生かした計画づくりと児童生徒の主体性の育成。

【来年度に向けて（改善策）】

□ 児童生徒が自分事として取り組むことのできる探究課題づくりのための地域資源の掘り起こし。
□ 児童生徒の主体性を引き出すことのできる単元計画・授業づくりの継続。
□ 単元で身に付けたい資質・能力に応じた情報活用能力の育成に向けた計画の整備。
□ コミュニティ・スクールを活用した取組の充実。